

新規事業評価調査書

事業名	街路（都市計画道路 茨木箕面丘陵線外 1 線清水高架橋整備事業）	
所在地	茨木市清水 1 丁目、宿久庄 5 丁目	
事業概要	目的	本事業は、国際文化公園都市（彩都）への重要なアクセス道路である（都）茨木箕面丘陵線において、当該路線と一般国道 171 号が交差する清水交差点の立体交差化（清水高架橋の整備）を行うものであり、今後の更なる彩都開発による交通需要増加に伴う清水交差点の渋滞を解消し、大阪都心部から彩都への円滑な交通を確保し、大阪大学をはじめ各研究施設等と彩都間の連携強化を図ることにより、彩都への企業誘致促進に寄与するものである。
	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・事業延長：L=0.4km ・橋梁上部工 L=0.3km（8.35m×2） ・交差点改良工事：1 式 ・道路規格：第 4 種第 1 級（4 車線）
	事業費	全体事業費 約 16 億円 （内訳）調査費 約 0.3 億円 用地費 約 - 億円 工事費 約 15.7 億円
	維持管理費	約 1.64 百万円 / 年（約 4.1 百万円 / km・年など）
	関連事業	国際文化公園都市（彩都）（事業期間：平成 6～24 年度） 国際文化公園都市モノレール（阪大病院前～彩都西駅）
上位計画等の位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪府交通道路マスタープラン（平成 16 年 3 月策定） ・彩都バイオグランドデザイン（平成 19 年 3 月） 	
優先度	本事業は、大阪都心部から国際文化公園都市（彩都）への主要アクセスである（都）茨木箕面丘陵線と一般国道 171 号を立体交差化することにより、円滑な交通を確保し、バイオクラスターの国際的クラスターへの発展を目指して、阪大をはじめ各研究施設等と彩都間の連携強化を図り、彩都への企業誘致を促進させるため、優先的に整備する路線に位置付けられる。	
事業の進捗予定	事業段階ごとの進捗予定と効果	平成 19 年度 交差点設計 平成 20 年度 桁工場製作 平成 21～22 年度 現地桁架設 平成 23 年度 交差点改良工事、供用開始
	完成予定年	平成 23 年度

事業を巡る社会経済情勢	事業目的に関する諸状況	国際文化公園都市（彩都）の全体計画 ・事業主体 独立行政法人 都市再生機構、民間事業者 ・計画面積 約 740ha（茨木市域 580ha、箕面市域 160ha） ・計画人口 居住人口 50 千人 施設人口 24 千人 ・計画戸数 16.7 千戸 ・施工期間 平成 6～24 年度（平成 6 年 9 月 土地区画整理事業の大臣認可取得） ・まちびらき 平成 16 年 4 月（西部地区の一部） <H19 春の進捗状況> ・開発面積 約 120ha（彩都西駅周辺を含めた西部地区の一部） ・住宅 約 1.5 千戸 居住人口 4.5 千人見込み ・ライフサイエンスパーク 立地決定 9 施設のうち 6 施設が H19 春までに開業 （都）茨木箕面丘陵線の整備状況（新設）（一般国道 171 号～彩都西駅） ・平成 16 年 3 月 15 日 側道 2 車線暫定供用 ・平成 19 年 3 月 6 日 平面 4 車線供用（一般国道 171 号立体交差除く） （都） <small>さいのもとせつぎたせん</small> 道祖本摂津北線の整備状況（現道拡幅） ・平成 19 年 3 月 6 日 供用（茨木箕面丘陵線と同時供用） 国際文化公園都市モノレールの状況 （都）茨木箕面丘陵線に併設する国際文化公園都市モノレールの進捗状況 ・阪大病院前～彩都西駅 L=4.3km 平成 19 年 3 月 19 日開業 ・彩都西駅～（仮称）東センター駅 L=2.2km（彩都の開発熟度に合わせ整備） 清水交差点付近の状況（（都）道祖本摂津北線と一般国道 171 号との交差点）							
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>路線名</th> <th>（都）道祖本摂津北線 （H18 年交通量調査）</th> <th>一般国道 171 号 （H17 センサ）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>混雑度</td> <td>1.45</td> <td>1.80</td> </tr> <tr> <td>24 時間交通量</td> <td>21,296 台</td> <td>42,232 台</td> </tr> </tbody> </table>	路線名	（都）道祖本摂津北線 （H18 年交通量調査）	一般国道 171 号 （H17 センサ）	混雑度	1.45	1.80	24 時間交通量
路線名	（都）道祖本摂津北線 （H18 年交通量調査）	一般国道 171 号 （H17 センサ）							
混雑度	1.45	1.80							
24 時間交通量	21,296 台	42,232 台							
地元等の協力体制	国際文化公園都市（彩都）の区画整理事業者（独立行政法人 都市再生機構・民間事業者）や地元市（茨木市）から、早期整備を要望されている。								

事業効果の定量的分析	費用便益分析	具体的な便益内容	受益者	費用便益比	備考
		走行時間短縮便益 走行費用減少便益 交通事故減少便益	地域住民 道路利用者	B/C=34.80 総便益 B=533.2 億円 総費用 C=15.3 億円 費用便益マニュアル(平成 15 年 8 月：国土交通省道路 局、都市・地域整備局)によ り算出	(下部工 は含まず)
	その他の指標 (代替指標)				
事業効果の定性的分析	安全・安心	<ul style="list-style-type: none"> ・交差点部を通過する交通量を高架橋への転換による歩行者の安全向上 ・救急車等の緊急車両の円滑な運行 ・災害発生時の緊急輸送路、避難路の確保 			
	活力	<ul style="list-style-type: none"> ・地域間交流連携の強化 ・物流の効率化の支援 ・国際文化公園都市(彩都)への企業誘致促進に寄与 			
	快適性	<ul style="list-style-type: none"> ・車両等の走行性の向上による快適性の向上 ・一般国道 171 号との立体交差化により国際文化公園都市(彩都)へのアクセス性の向上 ・交差点部を通過する交通量が高架橋へ転換することにより沿道の振動・騒音が低減される。 			
	その他				

自然環境等への影響と対策	自然環境への影響 本事業は、既設市街地での事業であることや、新たに土地利用転換を伴わない橋梁上部工等を整備する事業であることから、自然環境への影響は、特に考えられない。
代替案との比較検討	代替(案) 本事業は、当該路線と一般国道 171 号が交差する清水交差点の立体交差化(清水高架橋の整備)を行うものであり、清水高架橋の橋梁下部工は過年度に整備されており、橋梁上部工等を整備するため、代替案は、考えられない。
その他特記すべき事項	